

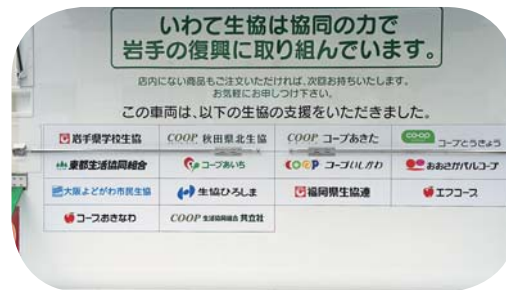
いわて生協：「にこちゃん号」3台目運行開始



2台目の「にこちゃん号」の車体。募金に協力した合計8生協の名称が車体に入っています。



いわて生協では、買い物に不便な地域で移動店舗「にこちゃん号」を運行しています。車両は、県内の組合員と全国の生協からの募金で購入したものです。



3台目の「にこちゃん号」の車体。募金に協力した合計14生協の名称が車体に入っています。

宮古市内で6月18日から運行が始まった1台目続き、10月24日には、2台目が釜石・大槌地域でスタート、そして、11月16日には3台目の運行が陸前高田・大船渡地域で始まりました。広報室長・吉井いづみさんは、「全国の皆さんの支援で3台走らせることができました。ありがとうございました」と話していました。

2011年台風12号被災地からの報告～三重県・和歌山県～

三重県では、2人の命が奪われいまだ1人の方が行方不明です。災害時には、コープみえがボランティアセンターに食品の提供を、三重県学校生協が熊野地域の学校に水を届けました。災害復旧事業の進捗状況は70%ほどで、100%になるにはあと2年程度かかる予定です。被災地域は、「高齢化問題」「買い物難民」「人口減少」など多くの問題を抱えている地域であり、三重県生協連事務局長の岡本一朗さんは、「協同組合の力が少しでもお役に立てば」と話していました。

和歌山県では、56人の命が奪われ、5人が行方不明です。災害時、わかやま市民生協では飲料水・缶詰・フードパック・ごみ袋などを提供しました。現在、主要道路は復旧していますが、堆積した河川の土砂により川が氾濫しやすくなったままです。また、仮設住宅の住民の過半数以上が今後の見通しが立っていない状態です。和歌山県生協連では、今年9月末から、和歌山県社会福祉協議会の要請を受け、災害ボランティアセンターの協力団体となりました。

また、三重県、和歌山県、奈良県の各県生協連が合同で開設した「台風12号災害支援募金口座」には、全国約40の府県連・生協から約3,700万円の支援募金が集まり3県で配分されました。

※奈良県情報は、本誌22号にてお知らせしています。



「伝えたい被災地」

このコーナーでは、ライター荒川和巳さんが被災地に入り、見たもの、感じたものを、お伝えしていきます。

「東北の生協は、発災直後から被災した職員や理事が率先して動いていたと聞きました。私は、それができなかった。悔いがあるんです」

関西地域の生協の職員さんがこう明かしてくれた。

自分は何もできなかった。今も、できていない……。取材をしていると、職員さんたちに限らず、こんなふうに無力感を募らせている人が多いことに驚く。

しかし、よく考えてみたい。個人の力は小さいし、大規模災害を生協だけで救えるわけもない(そもそも政府だってできてないのに)。大切なのは、何ができるのかを考えることではないのか。被災地に行けなくても消費で支援することはできるし、自分しかできないスゴイこともあるかもしれない。

まだまだ被災地にはいろんな問題がある。ずっとつながって行くために、自分のできることを考え続けていきたい。心からそう思った。



晩秋に薫る金木犀(福島市内)。*写真と本文は関係ありません。